

# 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第121号	氏名	富田 守
学位審査委員	主査 中島 憲一郎 副査 中村 純三 副査 黒田 直敬		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は最近社会的に問題となっている合成麻薬 MDMA の乱用の危険性について、分析化学及び法中毒学的立場あるいは薬物動態学的見地から検討するもので、その目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法 MDMA 及び MDA の超高感度蛍光誘導体化 HPLC 法を開発し、それをヒト及びラットの血液試料、ラットの血液及び脳の透析液試料に適用する手法は目的にかなっている。また、薬物相互作用の対象化合物に MDMA 錠剤中に含まれるカフェイン及びケタミンを選択した点も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で開発した新規分析法は数十フェムトモルの MDMA や MDA を検出可能な超高感度な方法であり、ヒト及びラット血液の定量に十分適用可能であった。また、ラットを用いる MDMA 及び MDA の体内動態、カフェイン及びケタミンとの薬物相互作用の検討結果から、MDMA や MDA の乱用が、中枢神経系に影響を及ぼすことを明らかとし、その危険性を警鐘することができた。これらの結果は分析化学あるいは法中毒学研究の発展に大いに寄与するものである。</p> <p>以上のように本論文は薬学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			